



名誉市民章が久美子夫人に贈られた



名誉市民章(左)と名誉市民称号記を前に、にこやかな表情を見せる橋本家の皆さん



出席者に見守られ行われた推たい式

故橋本龍太郎氏を 名誉市民に推たい

昨年11月11日

故橋本龍太郎氏の総社市名誉市民推たい式が、総合福祉センターで挙行されました。

昨年11月11日、故橋本龍太郎氏の総社市名誉市民推たい式が、総合福祉センターで挙行されました。式には、家族や市の関係者など約60人が出席。市から、名誉市民称号記と名誉市民章が久美子夫人に手渡されました。式の途中、橋本氏の活躍をまとめた映像が流されると、会場には懐かしそうに見入る出席者の姿がありました。最後に、久美子夫人が「本人もこの会場のどこかで、喜んでいることと思います」とあいさつされました。

「かな」美を追求 独特の書風を確立

文化功労者の誕生は、岡山県関係者では6人目、総社市では高木聖鶴さんが初めてです。「多年にわたる平安朝の優雅典麗で、繊細なかなを追求するとともに、雄渾で力強い漢字と優美で気品のあるかなの調和のとれた端麗な書を追求め、情感を秘めた現代感覚あふれる独自の様式を確立した」。文化功労者に選ばれたこの功績のとおり高木さんは、「かな」美の追求に挑み、平安時代の古筆や中国の古典を研究し、現代感覚あふれる独特の書風を確立されています。また、書道の振興にも大きく寄与されています。



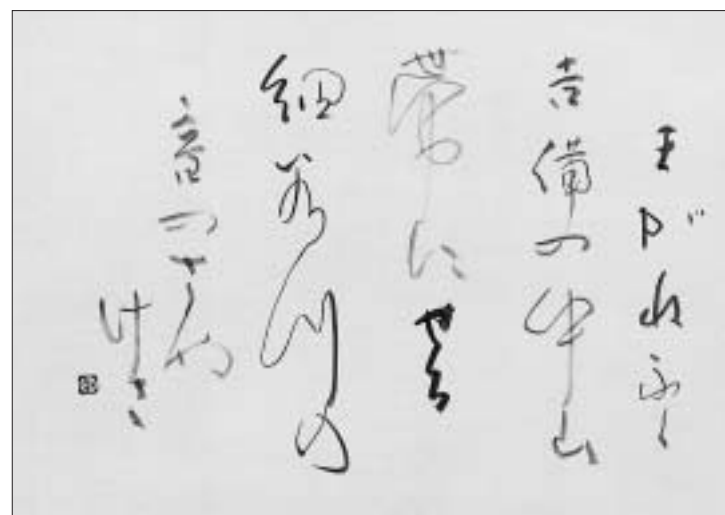
高木聖鶴さん

高木聖鶴 (たかぎ せいこく)

総社市真壁在住。日展初入選(昭和25年)、日展内閣総理大臣賞受賞(平成3年)、日本芸術院賞受賞(平成7年)、勳四等旭日小綬賞受賞(平成10年)など輝かしい業績をもつ。日展参事を務める。83歳。

文化功労者に

昨年10月、日本の文化の向上発達に関し、特に功績の顕著な人が選ばれる文化功労者に、総社市の名誉市民で、かな書家の高木聖鶴(本名 郁太)さんが選ばれました。



「まかねふく」